

## 知事記者会見（平成21年12月28日）

### ●知事発表

なし

### ●幹事社質問

- (1) 今年一年を振り返って
- (2) 平成22年度の政府予算案について

### ●その他の質問

- (1) 鳩山政権への評価について
- (2) 県政運営への評価について

時間：13：00～13：39

場所：プレゼンテーションルーム

---

(幹事社)

それでは時間になりましたので、今年最後の知事会見を始めさせていただきたいと思えます。今年一年、就任前から含めましてお世話になりました、来年も引き続きよろしくお願いたします。知事からの発表事項なしということですので、早速、幹事社からの質問に入らせて・・・。

---

(知事)

私の方からも一言ちょっとだけ。

今年4月以降、大変皆さんにはお世話になりました。今年は大きな選挙もありました。その後、政権交代等々いろんな事件がありまして、皆さんも大変だったと思います。今年一年、いろんな面でお世話になったことをお礼申し上げたいと存じます。そしてまた来年もよろしくと。以上でございます。

---

(幹事社)

ありがとうございます。

それでは幹事社からの質問に入らせていただきます。

今年一年、知事に就任されて8カ月強ですけれども、知事選などもありました。今年一年を振り返っていただいて、あと、今年の漢字もお示しいただければと思います。

---

(知事)

私としては選挙は4回目でしたけれども、おかげさまで約8カ月間、体調を崩して休んだことは1回もなく今日までまいりました。就任早々、大変な経済の状況だということで、例のないほど臨時議会もありましたし、途中で政権交代、そしてこの年末には政府予算への対応等々、私にとっても大変慌ただしい一年でした。歳を重ねますと、時間が早くて、あっという間に過ぎたなという感じがしました。

来年、全て私の責任での県政運営が待ちかまえていますので、今年のこの8カ月の蓄積と、その間の議会、あるいは県民の皆さんとのやり取りをお正月中、頭の中に浮かべながら、来年に向けての構想をもう一回整理したいと思います。

あと、今年的一年、いろんな漢字の表し方がありますがけれども、私は下手な字で、申し訳ございませんが、一応、私の花押・落款がありますので（色紙に）書いてまいりました。平成21年師走ということで、こういう形で・・・（「分」を書いた色紙を示す）。内容は今ご説明申し上げます。

一番身近なところでは仕分けの「分ける」です。あとは分水嶺とか天下分け目のという意味です。今年は、県政も変わりました、また、天下分け目の戦い、衆議院の選挙によって、国政上の大きな分岐点にもなりました。当然これからの日本、あるいは秋田がどういう形になるのか、いい方向に行くのか、悪い方向に行くのか分れ道にもなります。

また、新政権で、たぶん国民の皆さんが一番頭の中に入ったのは事業仕分けのことだと思います。私も難しく考えないで、パッと頭に浮かんだのが天下分け目の衆議院選挙、あるいはこれからの日本がどこへ行くかの分かれ道、そして仕分けでした。

この言葉が今年のマスコミの皆さん、例えば、新聞の表題で使ったというののもかなり多いのではないかと思います。交代の「代」とこの「分」が一番出てきているのではないかと思います。そういうことで何となくこのように書かせていただきました。

-----  
(幹事社)

ありがとうございます。

2つ目の質問に入らせてください。先週金曜日に来年度の政府予算案が閣議決定されました。コメントも出していただいたんですが、改めて全体的な感想をお願いします。

-----  
(知事)

過去最高の9兆2千300億円の予算、一般会計総額になった訳です。それぞれ個別政策についてはいろいろな感想がありますが、トータルとしてコメントさせていただきました。経済の落ち込みによる税収の大幅減があって、多額の国債の発行、そして税外収入、埋蔵金の取り崩しで予算をつくったわけです。

財政を預かる立場で見たとき、これは地方財政でも市町村の財政でも同じですけれども、平成22年度はいいけれども23年度はどうやって予算を組むのかなと思います。10兆円ちょっとの埋蔵金は、ほとんど底をつくでしょうし、しかもあれは準備金的な埋蔵金でもありますので、全部空にしておくわけにいかないものもあり、また、税収もそう伸びる要素がない訳ですので、平成22年はいいとして23年どう組むのかと。これは誰も想定できないことが起きる可能性もあるのかなと思っています。来年度、所得補償やこども手当等、あるいは暫定税率これはどうなるのかわかりませんが、いずれ現状の税制の

中でこれを処理するのはなかなか難しいのではないのでしょうか。

個別には地方交付税が原口大臣、鳩山総理のお約束通り一定増がされましたけれども、あと足りないところは臨時財政対策債に相当頼っています。地方税収が落ち込んで地方財政計画がマイナスになっていますので、増えた分がプラスになるという話ではないです。そのマイナス分の補てんがありますので、地方財政については交付税が一定以上増えたにもかかわらず厳しさはさらに増していくと思います。

あと公共事業については、相当大幅な減になっています。道路関係については、秋田の場合は他の都道府県に比べると凍結の分も割とないし、若干のマイナスがあっても（事業が）止まるという話ではないです。農業関係については、所得補償に財源を回すということで、基盤整備、あるいはその他の様々な事業について、相当大きなマイナス要素がありますので、これらについてこれからどうするのかという頭の痛い問題もあります。

民主党の分配政策。先ほどの「分」は民主党の分配政策の分でもありますね。民主党が分配政策を重視したということによって、その他のところが、今の基盤整備も含めて落ちていますので、全体の力として発揮するにはどうなるのかという点が非常にこれから心配です。ただ一部、新エネルギー政策等、我々もこれから取り組もうとしているものについては、ある程度の流れができましたので、それは良かったなと思っています。

個別の予算を執行していく段階で、民間との関係、民間の皆さんがどういう状況でこの影響受けるのかということ、新年度になって、それぞれの現場で生じてくることになると思います。

これは、決まった予算ですので、これに対して今度はどう対応していくか、年明け以降の県の予算編成の作業になると思います。全体として、分配政策というものを重視して、長期的な流れではなく、民主党として、政権交代1年目ということでしゃにむに形をつくったということではないかと思っています。

---

(幹事社)

幹事社からの質問は以上です。各社どうぞ。

---

(記者)

あの、知事ご自身で、国のこの予算編成について点数をつけるとすれば、どういう点数になりますでしょうか。

---

(知事)

・・・何点かな・・・50点。

---

(記者)

50点のマイナスはどの辺でしょうか。

---

(知事)

大きい点は、平成23年以降どうするのかということです。4年間、消費税を上げないと言っていますので。それから暫定税率については、環境税に振り向けるだとか地球温暖

化防止に振り変わる可能性はあるんですが、それにしても暫定税率がなくなって、他の税に振り変わったとしても、それが3倍にも4倍にもなるというのは常識的に考えられないと思います

しかし、国債をこれ以上発行すると、今度は長期金利にそろそろ影響して、日本の財政に対する信頼度が揺らいでくる可能性が出てきますので、来年、増税もせず、国債発行も一定の程度に収めるとすると、ほとんどの事業をほぼゼロに近いところまで落とさないとできなくなる可能性もあります。そういうことが果たしてあり得るのかどうかということです。

ですから、我々地方財政を預かるものとしては、国は国債を原理的にはどこまでも発行できますけれども、我々はできませんので心配です。私は心配性なので、もし自分でこういう予算を組んだら夜寝れないですね。鳩山さんの場合はお金の心配したことないでしょうから・・・皆さん方も、たぶん給料以上に買い物すると、来年大変だなと思うでしょう。普通の人だったらこれこういう予算組むと、トップは、(この先のことが心配で)寝れないですよ。少なくとも税収が、今より、14、5兆円多くないと、つじつま合っていないです。これ14、5兆円、税収を多くするというとどういうことになるのか・・・個別の問題よりもここでまず大きな減点要素になっています。

問題は例えば農業関係などで、前にも言ったとおりに、基盤整備の部分は、連続してやって全体として出来上がらないと意味がないところがあったりしますので、新規は抑えても継続のものについては、政権が変わろうが、それを前提にしてやっている民間の方に影響が及ぶということは、これはどうなのかなという感じです。

公共事業などは、財政が苦しいからということで、我々としても削るものは削っていますけれども、民間の皆さんと約束した中でやられたものについて、これから(いろいろな影響が)表に出てくるのではないかと思います。そこら辺についてのバランスというか相関関係をあまり見ないでつくったような気もいたします。

ただ、交付税について、地方に対する配慮ということで、鳩山総理の口からも、原口大臣の口からも知事会の時にはっきりお話が出ましたので、さすがにこれについては約束はちゃんと守られたと思います。

-----  
(記者)

今の関連で、仮に知事ご自身が予算を組んだらというふうにお話を今されていましたが、仮に組むとしたら、では、歳入が非常に減って厳しいというのは誰がやっても同じ状況ではある訳で、仮にご自身で組むとしたらどうすべきと・・・。

-----  
(知事)

こども手当については世論調査して、皆さんくれるものはもらいたいと、例の定額給付金の時も、くれるというのならもらうけれども・・・という状況でした。私は直接的な分配政策の分はできるだけ抑えて、むしろ後に残る、しかも一定の経済対策としても成り立つ、例えば保育所の待機児童の抜本的な解消だとか、あるいは、これは子供ではないんですけれども、高齢者福祉施設についての手当とか、本当に今大変だということとの事業をすり合わせて、地方分権という方向の中、全国一律ではなくそれぞれの地域の実情に

沿った形のソフトな基盤整備というようなものをやったいいのではないかと思います。これだと制度化しませんので、その時によって若干変更ができますし、一旦、分配政策を制度化しますと、これをなくすというのは、なかなか難しい。給付水準を減らすということになると、政権の存続に影響しますので、なかなか一旦分配したものについては圧縮できません。あるいは、高校の無償化にしても、例えば免除の（所得）基準を緩くするか、できるだけ固定費を抑えるようにしますね。分配分は固定費になりますので。これは、マニフェストとの関係でどうしようもなかったと思いますが・・・今までの従来型の発想だと言われればそれまでですが。なかなか難しいところです。

-----  
(記者)

現在、編成が進んでいる県の当初予算への影響についてお伺いしたいんですけども、金曜日に国の予算がはっきりして、県では今、当初予算の編成方針では数十億円ぐらいの歳出削減を目指して収支不足を凶ろうとしておりますけれども、国の予算が見えてきたことで、知事としては収支不足は来年度予算で達成できそうかどうかという感触についてと、あと今後の、現在査定も一部進んでいると思いますけれども、このようなところで軌道修正しなければとか、このままの方針でいくとか、そういったお心のあたりをお伺いしたいんですが。

-----  
(知事)

全体的には、交付税がある程度安定しました。税収減との関係はありますけれども、交付税の関係では、若干増えましたので、何とか一般財源のベースについては、大体前年並で見ることができます。ただ、特に基盤整備関係で国の補助金がカットになりますと、それに伴って県の分も少なくなるものがあります。それを県単でというのは無理なものもありますし、大きな道路とか農業関係全部を県が肩代わりしたりしたら、もう県財政は一発でひっくり返りますから、そこはいかんともしがたいところはあります。

場合によっては、県である程度肩代わりしてでも何としてもやらなきゃならないものが出てくると思いますので、これからそういう選択をしていくことになります。

あとは、例のこども手当とか、高校の無償化についても、地方負担が出てきますので、1年だけと言ってますが、どうなるのか・・・。最初はないという前提でやりましたけれども、今度は負担が出てきましたので、マイナスの要素があったりします。

今、全体的な計数整理は中身がよくわからないものもありますので。総枠だけで、個所配分がまだ後というものもありますので、全体を見通すのは先になると思います。年明けの査定に向けての作業も始まっていますので、地方財政としてのプラマイというのは、まだ、算定できる状況にありません。

-----  
(記者)

2点お伺いします。

マニフェストなんですけども、民主党がマニフェストに掲げた内容と、それが今回実際に予算になった時に、例えばこども手当だと地方負担を求めないということが求められたり、その内容の変更がある際に、国に対する注文というかですね、事前の地方との協議を

もっとやってほしいとか、あるいは国民への説明責任をもっと果たしてほしいというふうな思いがあまりなのかということと、鳩山政権が発足して100日間経ちました。この100日間をよくハネムーン期間と言われて、割と厳しい評価を控えるようなことがあります。これまでの100日間の鳩山政権に対する評価を一緒をお願いします。

-----  
(知 事)

前の方のマニフェストの関係ですけれども、一応、こども手当では地方負担は求めないと言っているんです。児童手当の部分は残していますので。あるいは、暫定税率も廃止と言っています。暫定税率はなくなるそうなんです。但し、税率は同じで、これをどうするのか、まだよくわかりませんけど。暫定でなくすると2つしかないです。本則にのせるとすると暫定どころか、より強化するというで永久措置になります。そうすると、別の税制つくるのかということですが、同じ税を同じ客体からいただくのに別の法律つくるというと、事務作業等非常に煩雑になって全く意味がないですね。

こども手当には地方負担求めません・・・児童手当を残したからと言いますが、そこら辺が・・・いい意味だとトリックプレーですけれども、悪くとれば、非常に屁理屈でしょう。むしろこういうものは財政状況がこうだから、マニフェストに書いていたことは我々甘かった、政権党ではなかったから、そこまで見通すのはできなかったので、申し訳ないけれどもこうしてくれとはっきり言った方がスッキリしますよ。最後になって屁理屈になっているという点は、潔さがないと思います。

それと地方との協議ですけれども、これは全部というかほとんどないと。地方と協議する場があったとしても、地方六団体だったら1時間ちょっとで個別のところまではできません。今まで、税制改正とか地方に関係あるもの、例えば都道府県税に関係あるとすれば知事会に幾つか投げかけて、知事会の方で決まっていたんですけども、そういうルールそのものを今の政権はつくっていませんので、実際に、具体的な協議をするという手段が我々はなかったということです。

これが将来的に地方との協議化を設けるにしても、個別の話は大体1時間か2時間でとてもできませんから、そこら辺がこれから非常に大きな問題になると思います。来年年明けから、地方六団体の会がいよいよ始まりますので、地方側からも、相当その問題は出てくると思います。

あと、鳩山政権については、奥様と海外に行っているのが非常に目立って、海外の方が楽なのかなと思います。結局、普天間の問題にしても、落とすどころがまだ出てこないで、この後、いろんな面で大変だと思います。

連立政権であろうがなかろうが、やはり腹をくくるということは必要ですし、連立であればそれなりに礼を尽くして説明してということです。総理大臣は国益としてどうなのかということが、総理大臣の一番の最後の仕事です。そこら辺についての思いというものはいかなものかなと思います。やはりお金に苦労したことのない人は、なかなか苦労がわからないかなと。

-----  
(記 者)

先程から話に出ていますこども手当の地方負担の件なんですけれども、あの、神奈川の

松沢知事とかは、負担をボイコットするような発言もしているようではありますけれども、基本的にはそういった考えはない・・・。

-----  
(知 事)

やはり国で決まった以上、これをボイコットするということは秋田県の人に渡らないということなんです。しぶしぶでしょうけれども、これは従わざるを得ないと思います。ただ、1年間の暫定措置となっていますので、この暫定措置をどうとらえるか、これから知事会、市長会、町村会で横の連携をとりながら、この後、平成23年度に向けてのアクションが出てくるのではないかと思います。

ボイコットすると威勢のいいことを言っても実際できるかというのと、それはなかなか、直接住民のプラスになるものなので・・・実は国もそれ見越してるんです、そんなことをいってもボイコットなんか絶対できる訳ない、口だけだと。国から足下を見透かされて、我々自治体としては苦渋の選択です。

-----  
(記 者)

政権変わってから何かとずっと話題になっていたかと思うんですけども、ダムの件なんですけども、あの森吉山ダムに関してはほぼ完成に向かえる状況だろうということになったかと思うんですけど、まずその森吉山ダムに関する、現状維持というか完成に向けていくということのご感想と、一方でその成瀬ダムと鳥海ダムに関してなんですけれども、成瀬ダムは今年度より予算がついているんですが、実際にはその来年7月のその有識者会議でどうなるかという検証対象事業になっているかと思うんですけども、それでも一応その27億2,600万円の予算がつきまして、今年度も転流工とか国道の付け替え工事とかが来年度行われると思うんですけども、そのことについて、それぞれお願いします。

-----  
(知 事)

森吉山ダムと県の砂子沢ダムについては、誰が見てもほぼ完成していると・・・住宅で言いますと玄関の前のたたきを舗装するとか、外にペンキ塗る程度であと全部できているという状況ですので、あれをやめるといったら、どうするのかと、逆に災害が起きてしまうと。我々としては当然こうあるべきだと思っていますので、予定通り近々完成ということです。

成瀬ダムと鳥海ダムですけれども、今までの既定方針に沿った予算のつき方ですから、全体としてどうするかとダムをできるだけ少なくしたいということが一方にありながら、今これを止めるとリアクションも大きいし、ダムを止めるための別の手法というのはまだ持っていないと思います。これから有識者会議で考えるということになるのかと思いますけれども、これが、相当シビアな議論になるのか、あるいは非常に雑駁な議論になるのか、よくわかりません。

結局、利水だとか災害対策という面については、その現政権も否定している訳ではないです。ダムによらない方法となった時に、具体的にその箇所毎に出てくるのかどうかというのはなかなか難しいと思います。非常に大変な作業になるのかなと。

沿線の堤防を嵩上げするといっても、沿線の住宅密集地があまりにもあり過ぎて、下流

の抜本的な流域工事ができないからダムに持っていったところもあるわけです。そうすると、また元へ戻る訳で、それが、全部嵩上げするといったら、ダムを作るよりもお金かかるということも出てきます。お金の問題と機能の問題、あとは機能の単位が、時間経過に伴って、果たしてどうなのかということもあります。

ただそういう場合は、ダムの本体をちょっと小さくするという方法だってあります。いずれ、どういう形で地元で協議があるのか、地元調査、今までの細かいデータを見ないと、これは結論が出ない問題ですので、どういうことになるのか我々も注視していきたいと思えます。

---

(記者)

あともう1つなんですけれども、秋田県で非常に結果がいい全国学力テストの予算がですね、事業仕分けではかなり減らせというような結論になっているかと思うんですけども、結局33億円ぐらいについて、大体30%ぐらいの抽出で行うというようなことを文科省は言っているんで、それに科目を増やすとかという議論もあるんですけども、統計的には大体5%ぐらい抽出すれば大体の傾向は見えてくるという話もあるんですけども、30%抽出ということに関して、悉皆から抽出になるということに関して、知事はどのようにお考えでしょうか。

---

(知事)

私は、いわゆる全数調査を毎年やる意味はないんじゃないかと思ってまして、実は文科省もそうなんです。4年から5年くらいで小学生が中学生になるということで、そのくらいで実はやめることになってたんですよ。これは、永久にやるのではなくて、グループが小学校何年の時、これが中学校へ行ったらどうなるのかという時系列も見たいということです。その後は、たぶん抽出みたいなこと考えていたんじゃないかと思うんですけども。

私は、全体として国がやるものについては抽出でいいのではないのかと思います。あと、県の教育として、県内の市町村間の切磋琢磨をどうするのかというものは、また別の問題ではないかと思えます。それぞれ県が独自でいろんなそのことをやっていますので、その中で生かしていけばいいのではないのか。この種のものは、何年かサンプリングして、ある時にまた全数をやったまたサンプリングとか、それで県全体としてはわかるんですよ。そうすると、県全体がほぼわかると、市町村のブレもそうはないと思うんですね。私はこれについては不満だとかということはありません。

---

(記者)

知事ご自身のですよね、県政運営について点数をつけていただければと思うのと、あとその理由を教えてください。

---

(知事)

人に50点と言って自分に100点なんては言うつもりはありません。大体・・・70点ぐらいにさせていただきたいなと思えます。大体7割、というのは議会ともやり取りしま



したけれども、少しこちらの説明不足があったり、全体のスキームの表し方がやや不足だったりしたものがあって、議論がいろいろあったところもありました。私としては、すべきことはしたと思いますけれども、議会の方とも、基本的なものは噛み合わないということにはなかったんですが、全体のスキームのことでいろいろありましたので、そういう点ではまあ70点ぐらいかなと思います。

---

(幹事社)

よろしいですか。では終わります。ありがとうございます。